

シャーロック・ホームズと金田耕助 実吉達郎

シャーロック・ホームズと金田耕助 実吉達郎

シャーロック・ホームズと金田一耕助^{きんだいちこうすけ}

定価 一、二〇〇 円

一九八八年七月二五日 印刷
一九八八年八月一〇日 発行

著 者 実 吉 達 郎

編集人 沢 島 毅

発行人 川 合 多 喜 夫

発行所 毎日新聞社

〒100 東京都千代田区一ツ橋

〒530 大阪市北区堂島

〒802 北九州市小倉北区紺屋町

〒450 名古屋市中村区名駅

印刷 中央精版 製本 大口製本

© Tatsuo Saneyoshi Printed in Japan 1988

ISBN4-620-30640-1

目次

1章

シャーロック・ホームズと明智小五郎
東西両探偵の推理力と行動力

12

明智も金田一もデビュ―当時はそっくり

15

明智はいつまでも青年、ホームズははじめから壮年

19

外国帰りの明智は、すっかり洒落男に変身

24

ホームズは推理マシーン、明智は活劇名探偵

27

明智の助手・小林少年『吸血鬼』でデビュ―

31

明智のベイカー街は、お茶の水か、麻布か、千代田区采女町か

36

ホームズも明智も、茶目っ氣たっぷり

2章

68 66 63 60 57 55 52 50 45 43 39

明智、一度だけルパンに怒りを爆発

ホームズも明智も、「報酬も要求せず、生活も困らず」の不思議

勇氣、知識、腕力は同格——冷徹なホームズ、情緒的な明智

ホームズも明智も死なず

坂口安吾のホームズ観と野村胡堂

ドイルの推理小説と日本の捕物帳の差

「推理」小説と「探偵」小説の区別

ドイル以前は「初期」だった

ドイルこそ捕物帳の祖なり

ルパン卒業——ドイルから綺堂へ

ホームズ以外のドイル作品の評価

ホームズ・ワトスンと平次・八五郎

捕物小説の文学性

3章

シャーロック・ホームズと大岡裁き
名探偵と名奉行は比較できるか

72

一つだけホームズも手ぬかり

74

「自分を殺す」トリック集

78

天一坊と小間物屋彦兵衛

80

ギロチンによる「首のない死体」

83

大岡越前守の推理法

86

ホームズ流の大岡裁き

4章

包孝肅・ホームズ・越前守

なぜ、中国には名探偵は生れなかったか

90

ホームズが中国文学に与えた影響

92

公案ものホームズ、俠義ものルパン

94

ドイルの『桜脣』とは？

「中国流探偵小説」とはどんなものか

ホームズも名判官役を演ずる

「謎語」に対する推理能力

沈黙想と怪談探偵

岡本綺堂の包孝肅幽霊小説

マヌケな犯人と隠秘な殺人法

酷吏と良吏は面と反面

ユーモラスな大岡越前守

権力と探偵——孤高なホームズ

大岡昇平氏のホームズ論

「推理小説論」を読みかえす

推理小説を論ずる自信

退屈とホームズ、ルパン

6章

161 158 156 154

148 143 140 138 134 130 127

推理小説の観光PRでファンを獲得

「風俗性」の意味

作品をフロイト流に意味づける

新説「探偵小説の起源は中国」

『スキュデリ嬢の秘密』を読む

探偵小説はばからしいか、超えるべきか

タブー、そしてマニア・グループ

「ホームズ殺人事件」と由利麟太郎

なぜ由利が消え、金田一が誕生したか

誰がホームズを殺したか

由利麟太郎を殺したのは誰か

『蝶々殺人事件』で復帰するはずだった

作者はおどしのプロ

7章

190 187 184 181 179 177 174

171 169 166 163

等々力警部だけは残った

由利麟太郎とホームズの比較

ソーンドイクも腕力家

ホームズと由利麟太郎——もつとも大きな差は？

シャーロック・ホームズと金田一耕助

ホームズが「イギリスの金田一」になる可能性

『病院坂の首縊りの家』の発想ルーツ

ホームズの「死」と金田一の渡米

金田一耕助も帰ってきた!?

刑事コロンボは金田一の亜流

ホームズと金田一——ハンサムなイメージはどこから？

作者には美少年嗜好があった

作品にはさまざまな同性愛がえられる

そして、金田一自身はどうか？

作者とホームズ、金田一の関係

金田一耕助のホームズ問答

資料—シャーロック・ホームズの輪郭

あとがき

装丁
久米泰弘

シャーロック・ホームズと金田一耕助

シャーロック・ホームズと明智小五郎

東西両探偵の推理力と行動力



明智も金田一もデビュー当時はそっくり

「何の因果か、私は人並以上に、泥棒や人殺しの話が好きなのであります」

という、とんでもない言明から書きはじめられている江戸川乱歩の『悪人志願』（大正一四年）に、次のような指摘がある。

探偵小説の骨は、恐ろしい或いは風変りな犯罪を創造することであります。それさえ出来れば、探偵の方は比較的案に行きます。その証拠に、推理的だと云われるドイルのシャーロック・ホームズ物語を見ますと、一見いかにも推理的で、探偵経路の描写に力を注いでいるようでありますが、よくよく分析して見れば、やっぱり犯罪の方法が風変りであったり、独創的であったりするので、その為に探偵の方が引き立てられて、さも推理的に見えるのであります。換言すれば、ホームズ物には殆ど推理はないのであります。

おそらくホームズ物に向けられた、もっとも苛^{から}辣^{らつ}で、鋭い評言の一つだろう。

だが、批評と創作は別の仕事である。右のように言明した江戸川乱歩と、名探偵の創造者としての江戸川乱歩とは、別のところでのものをいっているのだ。乱歩の創造した名探偵明智小五郎も、

ホームズの外に出ることはほとんどできず、極東におけるホームズの子孫の一人である。

明智小五郎が金田一耕助とあい並んで、わが国を代表する二大名探偵であることはなんの疑いもない。明智がホームズの日本での子孫だとすれば、ホームズの特徴やおもかげに似ているところがあっても不思議はない。だがもちろん似ていないところも多いし、作者はいうまでもなく日本風に、自己流に、明智らしきを出そうとしたにちがいない。

もちろん、ホームズは明智よりも何十年も先輩である。

だからずっと後世の作家の江戸川乱歩が、ホームズを十分意識して明智を「自分の名探偵」として創造したのなら、はじめから似せてえがくはずはない。

ホームズがはじめから——いちばん若いころの活躍は『グロリア・スコット号』で、まだ学生二〇歳の若者だったにもかかわらず、すでに老成して、できあがった風格をもっていた。それに反して、明智はそれよりは年上の青年として登場したのに、いかにも若い「書生風」である。ホームズとは似ても似つかない。

明智は作中人物としてこの出発当時、ホームズよりも金田一耕助に似ていた。いや、作中人物としてこの出発は金田一の方がずっとあとだから、金田一は明智のデビュー当時に似せてえがかれたといってもいい。

作者・横溝正史氏が意識して金田一を明智に似せたとは言わない。和服にヨレヨレ袴、蓬髪の手頭という金田一耕助の姿は、今でこそ特異な彼のトレードマークになったが、横溝氏が『真説金

田一耕助』（昭和五一年）の中で書いているとおり、「金田一耕助は当時（昭和一二年。彼のデビュー年代）の日本人としては標準的服装をしているだけで、べつに奇をてらっているわけではない」からだ。そのころの風来坊的、遊民的な学生あがりの青年は、たいてい和服だったし、服装にかまわない男が多かったのだ。

明智小五郎の初登場は大正一四年に発表された『D坂の殺人事件』であった。そこに描写されている明智の姿は「いつも荒い棒槌の浴衣を着て、変に肩を振る歩き方で」「どちらかといえば瘦せた方で」「いわゆる好男子ではないが、どことなく愛嬌のある、そしてもっとも天才的な顔」「髪の毛が長く延びて、モジャモジャともつれ合っている、それを彼はさらにモジャモジャにするためにように指でよく引っかき廻すのが癖だ」。

いかにも金田一耕助によく似ていてではないか。乱歩は明智を出すたびに、しつこいくらい、頭髮がモジャモジャだということをくりかえすし、金田一ときては何か興奮すると、「頭の上の雀の巣をガリガリ、バリバリ、めったやたら引っかきまわし」て、あたり一面にフケを飛びちらせるのが天下周知のクセである。明智はこのときは袴も穿いていないようだが、金田一はいつもヨレヨレ袴、「色は白い方だが容貌は取り立てていうほどのことはない」とある。これは明智の「いわゆる好男子ではない」というのに相当するだろう。明智はいつもニコニコしていると書かれるし、金田一は目をねむそうにシヨボシヨボさせながらと形容される。金田一は「人なつっこい」と書かれ、明智は「愛嬌のある」と表現される。